

平成 22 年第 4 回定例会-3B(第 7 日 12/6)

18 時 45 分開議

●議長(浅野正明) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第 3 の議事を継続します。

これより、質疑に入ります。

池沢敏夫議員。

[池沢敏夫議員登壇]

●池沢敏夫議員 ただいま上程をされました発議案第 1 号船橋市議会議員定数条例の一部を改正する条例について、提案説明を伺いました。そして、幾つかの疑問点を質問し、お答えいただければと思います。

まず、先ほどの長々とした提案説明は、全部メモし切れなかったんですが、あらかじめ用意をしてある提案説明の理由のところでは疑問点がありました。

今までと一緒に議会活動をやってきました、提案者のすぐれた民主主義の思想というんでしょうか、その大原則、いずこへ行ってしまったのかというふうに、まず第 1 点感じました。

議会の改革のために、市民に開かれた議会のために日曜議会を提案なされた。あるいは専決処分、勝手に決めてくるのも、やっぱり常任委員会で議論しなきゃだめだ、委員会に諮って付託をして議論しようじゃないかというご提案。それから、最近では、市民に開かれた議場ということで、国体の応援のために市立船橋高校のダンス部をお招きして、ここにチーバくんまで入って、市民ともども鑑賞する機会までこの議場で行われた。それらのご提案をきちっとやってこられて、我々はもう根っから古くからやっているという発想が生まれません。だめなもんだと思っちゃう。お父さんたちに怒られた。そんな格好でそんな提案するんじゃないって怒られてきた経験があったもんだから、なかなか私どもから言う機会がなかったんですが、長谷川議員、なかなかの見識を持って提案をされてきた。立派な議員として評価をしてまいりました。

そして、一番新しい話では、金曜日の市政一般質問。小中学校における、あるいは船橋の市立学校における空調設備の設置について、短兵急過ぎないかという指摘、

どこが急げと指示をしたんだというご質問、言われるとおりでというふうに感心をして聞いておりました。そのままその質問を第1問としてお返ししたい。

何でこんな急に突発的に出してきた、今まで我々議論しようとして何度か提案してきている——先ほど並べられた提案は、私たちが議会の基本条例へ向けた提案に全部記してあるとおりを述べられている。それらは、6月の議会に我々提案したときに、議運での議論は、今期ではやめよう、来期じっくりとやろうじゃないかということを決めることになりました。その席上にも提案者は出席をしていたはずだと思うんです。だから質問をしたいのは、立派なご提案、そして、そのとおりで進めていきたいんだけど、それだけの提案をする以上は、もう少し議会の中で詰める必要があるんじゃないか。ほんの少数の提案者で提起をして、急にこの場で決めろというのには、余りにも民主主義的手続がおろそかになっていないだろうかかと指摘をします。段階も踏まずに、なぜこの時期の提案となったのか。本当に通す気があるのかどうか。

それから、議会の中で一服しながらいろんな議論もあるんですが、短兵急の提案になっていないだろうか。選挙に向けてのパフォーマンスじゃねえのかという議論まで出ている。そんな見方にどう答えるか。きょうもめればいいと、新聞にでも載ってくればもうけだなんていう話さえ出てきているの。そんなこと言われて、我々議会の側が黙っているわけにいかない。その辺について、パフォーマンスではという見方については、どう答えられるか。これが私の2つの思いです。

それから、3つ目に、あらかじめ提案されたその理由が述べられている。新しい社会情勢——新しいと言うのかな、今の社会情勢というほうが正しいと思うんだけど、この経済情勢に即応して、地方議会の制度を目指していくというまず文言があるんですが、どういう議会制度を目指そうとしているのか質問したいと思ったんです。ところが先ほど提案がしっかりありましたから、そのことはわかりました。しかし、議会が住民の意向を反映する機能を確保しつつ人数を減らさなきゃいけないと言ってるんだよね。「しつつ」という言葉で、現在行われているということをあなたたちが提案理由の中で説明していることにならないか。私は、現在、議会が住民の意向を反映する機能を確保していない、まだし切れていないというふうに思っているんです。そして、簡素で能率的な運営をする観点から定数を見直すんだと言っているんだけど、じゃあ40人にすれば、あなたのおっしゃる理想の議会ができると思っただけじゃないでしょうか。

私は、この提案理由を読んで、議員の定数の見直しを図る必要があるというところまで、よくわかるような気がした。そして、これがこの条例案を提出する理由であるというところが、このことを審議する特別委員会の設置が必要だとか、あるいは議会基本条例の制定を議論する場を提案するという説明資料であるべきではないのかとい

うふうに思うんです。そして、しっかりと議論した上で、民主的な議論の手順を踏まえ、そして必要なことを可能な限り多くの方々の賛同を得て進めていこうというのが、あなたの目指す議会の、提案者の説明理由ではなかったかというふうに思うんです。それらを抜いてしまった理由は何かについても、率直な疑問ですので、ご答弁をお願いして、1問といたします。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 ご質問ありがとうございます。

まず、短兵急にというお話でございますけれども、これは私の中では急にではなくて、前回の議会あたりから、もうそろそろ選挙のことを考えて、どうすべきかというのは周りとは相談はしておりました。それで、過去の事務上の問題を伺ったところ、おおむね、過去減数を引いたときは4定で、もちろん池沢議員がおっしゃるように、過去においては、それなりのコンセンサスを得てやっていらっしゃる。過去においてははですね。なので、その部分を省いたと言われれば、省いたのかもしれませんが、ご承知のとおり残念ながら私ども2人の会派でございますので、発信力、発言力、全くございません。なので、形を整えていくのが精いっぱいだったというのが実態だと思います。急にというのはそのところです。

先ほどの提案理由の説明の中でお話をさせていただきましたように、多くの市民の方々から言われていることは間違いありません。多分、議場にいらっしゃる議員の皆さんは、まじめに仕事をしていらっしゃるからそんなことないのかもしれないんですが、少なくとも私の周りの市民の方々には、「お前いつも何やっているの」というのと、「いつもどこにいるの」とか、そういう話をよくされるものですから、それらと、先ほどもご説明申し上げたように愛知の例、阿久根の例、それから草加の例が、たまたまこのところぼんぼんぼんとメディアを賑わせている中では、結局、名古屋も僕が名古屋の議員さんに会いに行ったときに、減数引かざるを得ないんだという話が出ていて、それもかなりせっぱ詰まったような状態だったようなんです。その後、横浜の仲間に来て聞いてみると、横浜の場合は、前回の議会で減数を決めておいて、次の改選後に最終的には数を減らしたということなんですけれども、とにかく、もう数は減らしていかなくちゃいけない状況だよというのは、議会にかかわっている仲間もみんな言っています。

それから、僕の周りでも、さっき言ったように、「お前何やってんの」の世界の人たちも、僕は地元の中学校の30周年式典のときに県の職員だった方に言われたんですけれども、「お前いいよな。年に4回議会出ていて、1000万ぐらいもらってるんだろ」と

いう話をされましてね、みんなの前で。何をどう言おうと、そういう言い方されちゃうともう言いようがないんですよ。なので、これはどこまでできるかは別として、私は自分から声を上げなきゃいかぬというふうに思って、周りから動き始めて、そういうお話をさせていただいたということです。

パフォーマンスではないかと言われると、大変残念なんですけれども、僕、大嫌いなんですよ、パフォーマンスをやる議員さんて。たくさんいらっしゃいます。チャラ男議員とよく言ってるんですけど、ちゃらちゃらちゃらした議員さん、今ふえてきていますので。この市じゃないですよ。この議会ではなくて、よその議会で私が研修生を受け入れている組織なんかの会議に出ますと、この間もちゃらちゃらしたやつが1人来ていたんですけど、僕はそういうの大嫌いですから、ちょっとそこには当たらないというふうにお答えをさせていただきます。大変申しわけございません。

それから、議会としての「多様な民意を反映しつつ」、この部分。ここが私も物すごく悩んだんです。仲間の議員さんとの議論の中でも、そこが結局は焦点になるんですね。共産党さんはいつも、民意を反映するためにはより多くいなきゃだめだということをご主張なさっていることも僕は伺っていますので、それも考えた。だけれども、残念ながら議会が何をやっているかということをも市民の皆さんに十分に周知ができていない中で、少なくとも僕の周りでもできていない中で言わせていただくと、どこかの、朝倉さんと会った 議会基本条例かなんかの勉強会、どこだったかな。あのときに、それこそ会津若松の事例が出て、どんどんどん議会が出張って行って、要するに党派・会派なんて関係なく出張って行って、住民のところにも議会の報告をして回るというお話がありましたよね。あそこが目からうろこなんですよ、完全に。

それで、ああいうことをせにゃいかぬなというのは、僕の頭の中にも入ってきて、あれをやるためにどうしたらいいかといったときに、議会が一丸になって改革に取り組むということをもどこかで踏み出さなきゃいけない。踏み出すために、その数の問題というのをどうすべきかということになったときに、反映しつつの反映しつつが、数が多けりゃ反映できるのかという今度方向で考えてみたときに、そうじゃないなと。数が少なくても反映するすべはあるだろうなというふうに思ったんですね。そこは、意見が分かれるかもしれないですよ。考え方が違えばしようがないんだから。だから私としては、「反映しつつ」の部分に関しては、クリアできると思っています。(「そういう制度をつくるのが、まず先」と呼ぶ者あり) 済みません、ここは僕が質問に答えているほうなので。

議会基本条例を制定するというのも1つの方法なんです。だからそれは僕も否定はしません。だから私自身は、土俵に上げることは全然問題ないなと思ったんですけど

れども、それは、この間も議会運営委員会で問題になりましたけれども、会派制の意義からすると、会派の中でそういう結論にならなかったということです。だから私個人としては、特段その話し合いをすることに関しては、やぶさかではないということです。ただし、だからそれに賛成するわけじゃないですよ。議会基本条例というものをこの議会が必要とするかどうかということの議論は必要だろうというところは僕はあります。だけど、議会基本条例をつくりましょう ということろまでは、僕はっていないということです。そういうことです。

ですから、今ご質問の中で、議会基本条例の委員会を設置するだとか何とかということから始めるべきではないかというお話だったんですけども、それは先ほどご質問者がおっしゃったように、流れたというか、先送りになったわけですよ。なので、じゃあ今度できることは何かといったら、ここで減数引くしかないだろうということなんです。（「先送りにしたんでしょ。あなたが」と呼ぶ者あり）私1人がそんな力ございませんからご心配なく。

一応、今のご質問に対しては、こういう答えということでよろしく願います。

[池沢敏夫議員登壇]

●池沢敏夫議員 まず私の質問の第1点、決してパフォーマンスではございませんというお答えでした。その点は大嫌いだから見方を変えていただきたいということのようですが、心配するのは、私が提案しましたって、あなたの「勝手に……報告」、毎回立派なのを出してるじゃん。こういうところに、提案するときにも名前言って、賛成者5名のほかに中村議員だの島田議員だのって言っているじゃん。それはどうだろう。市民に向かって、この人たちは良識派なんだよ、残り反対する連中はだめな議員だよということをおっしゃっていることにならないだろうか……。 （「じゃ賛成すりゃいいじゃん」と呼ぶ者あり）

賛成して、選挙勝ち抜きたいなんて、そんな考え方は私は持ちたくない。市民にきちっと判断をしていただくことが大切だというふうに思うんですよ。しかし、今のような、やじのような議論がある議会を情けないと思っているんだよね。そういう実態がある。だから私は危惧をして、パフォーマンスではないのかというふうに指摘をしているわけです。

まず、あなた自身のほかに提案者になっている人たちときちっと意見調整して、そんなのを選挙運動に使わないということを確認していただけないでしょうか。（笑声。「そんなわけにはいかないな。そのためにやっているんでしょ」と呼ぶ者あり）戦術として

いろいろあるのはわかるよ。あなたも10人削ったら危ない存在なのに、(笑声)勇気ある提案をなさっていることは、敬意を表しているんだよ、おれは。それで、私自身も危なくても、それに賛成をして票数を集めようなんて意思はまるっきりありません。しっかりとあなたのおっしゃったような議会を目指して頑張っていこうじゃないか。これからそのことが大切なんだ。そのときに40人にして進むというふうに私は思えない。中身を言うと、ちょっと自分がへりくだることになるからあんまり言いたくないんだけど、多様な考え方を持つ人々が、さまざまな観点から議論し合って、合意形成を図り、よりよい政策をつくり上げていくことが必要だ。そのときに40人に削ったとき、どういう状況になるだろうかという危惧があって、細かいことは言いませんが、心配をしながら質問はしています。

民主主義的な決定にはどうしても時間と経費がかかるものなんですね。まさに、民主主義のための必要経費だと僕思っているの、議会費は。議会が時間と経費以上の役割を果たしていれば、市民から政治不信だとか「議会を縮小しろ」などという声は出てこないんじゃないでしょうか。今、市民からいろいろ指摘をされているのは、我々の努力が足りないから出てきているんだという解釈。したがって、あなたの今の突発的な提案は、大衆迎合だと指摘をしたいと思うんですが、どうお考えになるのでしょうか。一緒にあなたのおっしゃったような議会を構成していくために、来期選挙を一生懸命頑張ってお互いにこの議会で議論をして、そして4年後の選挙に向けてしっかりと、どうすべきかを判断していくべきだというふうに思って、指摘をしています。

次に、執行部の提案議案を否決や修正させればよいというわけじゃない。だけれども、僕30年間の経験だけど、残念ながら、多少一定の意見をつけることはあったけれども、ほぼ提出議案は100%市長の提出されたとおりに決まってきました。承認をしてきました、議会は。だから、まさに執行部との緊張関係が希薄になって、そして執行部の追認機関に議会が成り下がっちゃっている。そういう現状を変えていかなければならない。そのために今40人にすることが正しい道なのかというふうに思うと、私は疑問でなりません。

第3に経費の削減の件なんですが、議会経費を削るには、他にも方策があるんじゃないか。私どもの主張はどうしても船橋の財政状況からいって、議会の経費を削減するために議員の定数を削るというんなら、より多くの声を、多様な声を反映できるように現状の50人を守って、そして一人一人の歳費等を削減することによって、議員の議会費を抑えることといいますか、削減することも手だてとしてはあるんじゃないでしょうか。それらの私の考え方に対してどうお考えになるかについて、ご答弁をお願いいたします。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 再びのご質問をありがとうございました。

まず最初のポピュリズムではないか、大衆迎合ではないかというお話がございました。全くありません。

でも選挙には使います。私は、議会をこのように改革していきたいということを選挙で訴えることは、何ら問題ないと思っています。ですから、当然のことながら選挙では使わせていただきます。こういう訴えをしたということに関しても使わせていただきます。ただし、それが大衆迎合かと言われれば、そうではありませんということです。

それから、追認機関というところが、おっしゃるとおりじゃないというのが、僕の気持ちです、どっちかという。だけれども、私が初当選したとき、もうお亡くなりになった滝口四郎先生のもとで会派を組ませていただいて、いろいろとお教を請うたわけですけれども、何て言うんでしょう、いい悪いは別として、議員としてはこうあるべきだ、議員はこうあるべきだ、いろいろ教えていただきました。それらに基づいてここまでいろいろと活動させていただいたんですけれども、まさに、池沢議員が先般の一般質問でお話しになったようなことを、最近私も感じているわけです、職員のことを。当時、当選1回目のころは、私も未熟だし、右も左も何もわからないですから、ましてや職員の方々はみんな年上ですから、そんなふうに残り感じなかったんですけれども、そのときもそうだったのかもしれないし、今がそうなのかもわからないんですけれども、ただ、池沢議員のこの間お話しになっていたお話を伺うと、今がどうもそうなんじゃないかというふうに思います。

いろんな仕事っぷりを見てると、この庁内の仕事っぷりを見てると、本当にチェック機能を果たさにかぬぞというケースが多々あるんですよ。だから、その追認機関であるというところは、私もそのように思ってますので、そのところはきちんと変えていかなきゃいかぬというふうに私自身も思っているところであります。

それから、私は先ほどの提案理由の説明の中で、議会費を削るということは主体的に話してないような気がするんです。少数精鋭にというのは、あるいは議会事務局の機能を強化するというのは、こういう枠の中に議会費があるとしたら、そこを減らすとかふやすとかというんじゃないで、とりあえず増収が見込めない中では、我々の議会費というのは、余り大きく動かせないわけですから、そうすると池沢議員がおっしゃったのも1つの手だと思えますよ。50人の定員で報酬を減らすというのが1つの方法。僕が考えるのはそうじゃなくて、定数を減らして、定数を減らせば議会事務局職員の

負担がその定数に対して負担がかかってくるのであって、より濃密な仕事ができるだろうというふうな考え方です。

だから、ひょっとすると私が思うには、議員定数が25人とかで、それぞれの議員に調査担当の職員がついてくれるとかという方法も1つの方法かもしれないと思っています。だけど、それが今ここでそうしたいというわけにはいかないのです。そういうことを議論できるような土俵というか、土壌というか、をつくるべきだというふうには考えておりますけれども、議会経費を削るというのは、私は余り思っておりません。

ただ、またポピュリズムと言われちゃいますけれども、一般市民の方々から見た視線では、「お前ら何やってるんだかわかんねえんだからよ」というところがある中では、報酬が高いだとか、いつ役所行ってるんだかわからないとかと言われてることを、少しでも変えていくには変えていくための行動が必要だなというふうには思っていますけれども、僕は余り議会費を削るということにはこだわりたくないし、今回の定数削減を提案する中では、どちらかという質の向上をメインに言わせていただきたいということです。

以上でございます。

[池沢敏夫議員登壇]

●池沢敏夫議員 議員の数は、決して議会経費の削減ということとイコールではないという答弁から、私の指摘をした大衆迎合ではないかというのについては、訂正をしなければならぬかもしれません。しかし、質の向上をメインに考えていらっしゃるという最後のまとめであります。10人削って40になると質の向上はあると本気で考えているのでしょうか。1点。

お国の選挙制度が、中選挙区制から小選挙区制に変わったときにもいろいろ議論があったけれども、小選挙区に変えて、そしてお金のかからない選挙をやるという理由のほかに、少数精鋭でと言うんだよね。それが売り言葉だったの。ところが今のお国の状況、惨たんたる状況だと、私一般質問のときにも言いましたけど、細かいことをここで言っても始まらないけど、あの少数精鋭に本当に任じられる状況だというふうに、あなたお考えでしょうか。

私は、まずここで議員の数を削ることが本当に議会の現状を打破し、そして、簡素で効率的な運営を期する観点から設置の提案、いわゆるこの発議案を出されたそうだけれども、そういうあなたの提案されている思いのとおりいくとは思えない立場で質問をさせていただきました。

これからも私は議論を続けることを期待いたします。そしてじっくりと議会はどうあるべきかということ議論し、そして市民とも対話をする場所もつくりながら、市民の声を反映する議会で、この議会、皆さんの全会一致をもって決められる案をみんなで話し合っ
つてつくっていいんじゃないかということ呼びかけて、質問を終わります。

[長谷川大議員登壇。発言する者あり]

●長谷川大議員 いや、だから僕、大衆迎合でも何でもないので。

質の向上は、議論のあるところだと思います。ただ、先輩方は皆さんよくご存じだと思
うし、ご経験なさっているから、物すごくわかっていらっしゃると思うんですけど、波
があるじゃないですか、每期每期。候補者の多い年と少ない年と。それでも大変失礼
ながら、僕、緩いと思うんですよ、選挙戦が。だって、これでこの減数がうまくいかな
ければ、多分皆さん戻ってこれますよね。(笑声)と思うんですよ。(「保証してくれるの」
と呼ぶ者あり)いやいや——というのは、今回減数ができたら次のクールで質が向
上するなんていうのは言っていませんよ。これが1クール、2クールって回っていか
ないと、質の向上って絶対あり得ないんですよ。

さっき申し上げたように選挙対策ばかりを4年間やっている方が、今当選するわけ
ですよ。より高得点でというか。僕なんか本当に何もやっていないから、池沢先生
おっしゃるように、危ないんじゃないかという、まさに、僕だってうちに帰ればおやじに
「お前何やってるんだ」といつも言われるわけですよ。選挙の年の正月になっても、
「何でお前うちにいるんだ」って言われるんです。うちの父の時代は、もう正月、ある
はその前から、12月議会から、毎日のように戸別回って選挙対策していたわけ
ですよ。それが「お前はいつも家にいて、パソコンパタパタパタ打って何やってる
んだ」と言うわけですよ。そういう状況がある中で、パソコンを打っていることが
いいとは言いませんよ。それから戸別に回らないことがいいとは言いませんよ。だ
けけれども、バランスって僕はあると思うんですよ。

個人名を挙げたくないんだけど、僕は日色議員って非常にバランスのいい活動を
なさっていると思うんです。がつつした選挙臭を出さないでいながら、しっかり地
元を固めているみたいなのがあって、そのバランスのよさというのは、休みの日に
地元行事にまめに顔を出したりとかということはあるかもしれないけど、議会にお
いては、きちりいろんな発言をして、あるいは議会がないときでも役所に来て活
動をしてということをやっているわけですよ。そういうバランスがとれている議
員さんがしっかり当選してくれば、僕、おのずと質の向上というのはあり得る
んだと思うんですね。そこに僕が当選してこれなければ、それはもうそれ
でしょうがない話なんですよ。

だから、僕は昔から「お前いつも青臭いこと言って」と言われるんですけど、それはもう性格だからしょうがないんですけども、ちゃんと志を持って、議員とはこうあるべきだという意識の強い人たちが、みんなが同じような意識を持って活動していれば、おのずと質の向上というのは僕はあると思います。だけれども選挙が緩い定数の議会では、それがそうじゃない方々も出てきてしまうというのが、僕は実態としてあるんじゃないかなって思っているところです。

それから、少数精鋭で今の国の現状を見てどうなんだということをおっしゃいましたけれども、それも僕は違っていると思います。私自身の持論としては、ここに50人いらっしゃる方というのは、少なくとも何十人の中からの50人なんです。みんな一人一人が魅力のあるすてきな人たちなんです。だから僕は、個々に議員さん方とお話をしたときって、みんな大好きなんです。みんないい人なんです。だからこそ当選してくるんです。それが定数が減れば、よりよい人が当選してくるんだから、(笑声)質の向上はあり得るわけです。

それから、もう1つ。これで県議選に転出していかれる方が何人かいらっしゃいます。県議選って今船橋の場合7名じゃないですか。選挙区全く一緒ですよ。そうすると選ばれた人なんです。さらに、国政になると衆議院の場合は全市で1区ですから、さらに選ばれた人になるわけですよ。やっぱりみんな魅力的な人なんです。ね。「そういう人選ばれてるんだと……」と呼ぶ者あり)そういうことなんです。僕が言いたいの、そこですよ。だから、ちゃんと質が確保できてっているじゃないですか、県議会でも国政でも。

ということは、先ほど池沢議員がおっしゃったように、今は大変な状況かもしれないけど、きっと何か打開策を見つけてきて、打開するような動きが出てくるんだと思います、私は。

ということでございます。答弁になったかどうかわかりませんが。